

血管造影の ABC

研修医レベルから始める 20 エピソード



編集：箕輪良行・七條祐治

B5判 頁 248 2007 年
定価 5,040 円(本体 4,800 円+税 5%)
[ISBN 978-4-521-67831-3]中山書店刊

箕輪良行先生と七條祐治先生による『血管造影の ABC』に目を通した。両先生は、臨床研修病院の指導医である。箕輪先生は聖マリアンナ医科大学救急部、七條先生は船橋市立医療センター放射線科で研修医の指導にあたっている。本書の 20 の章は 24 名の方々が執筆している。内科医 4 名、救命救急医 5 名、脳神経外科 1 名、循環器科 1 名、残りの執筆者は放射線科医で、脳、心臓、肺、肝臓、膵臓、結腸、四肢などの臓器について、それぞれの方が自分の得意分野を中心に、血

管造影の適応、種類、方法と手技(消毒、穿刺、止血、読影)などを解説している。

本書の各項目は指導医と研修医のやり取りをエピソード風に記載しており、分かりやすく、読みやすい教本にできあがっている。外傷や腫瘍、動脈硬化などの病態に対して、血管の異常(出血、閉塞、漏出、血腫の存在、異常血管や走行異常など)を血管造影によってどのように診断し、止血操作、血栓融解、フィルター挿入などの手技をどのように行うかを若手医師はおおよそ把握できるはずであり、この本を読めば、研修医が初めて血管造影に立ち会うことになった場合でも、あわてずに対処できるはずである。

しかし、血管造影を各臓器の病態に応用するためには、生命徴候の読みや血管の解剖などをはじめ、幅広い臨床上の知識や熟練を要することを各著者が強調している。初期研修、後期研修のさらなる研鑽が大切であり、血管造影も、そのうえで本当に施行することができる医療手技であることを強調したい。